



ADVANTEST.

2014年度 第3四半期 決算説明会

2015年1月29日

株式会社アドバンテスト

ご注意

- ◆当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆将来の見通しに関する記述について
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

ADVANTEST.



ADVANTEST

2014年度 第3四半期 決算報告

取締役 兼 常務執行役員 中村 弘志

業績概要

(億円)

	2013年度				2014年度						
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	実績	前期比		前年同期比	
								金額	伸び率	金額	伸び率
受注高	395	214	274	391	492	382	387	+5	+1.2%	+112	+40.8%
売上高	301	295	197	326	368	421	410	-12	-2.7%	+213	+108.8%
売上総利益	153	135	45	160	203	229	234	+3	+1.4%	+188	+418.9%
営業利益	-33	-47	-264	-20	24	40	34	-6	-14.3%	+298	-
税引前純利益	-28	-46	-269	-12	32	48	53	+5	+9.6%	+322	-
当期純利益	-36	-57	-248	-14	13	33	46	+14	+43.4%	+295	-
受注残	258	177	255	320	444	404	381	-23	-5.7%	+126	+49.4%

ADVANTEST.

2015/1/29

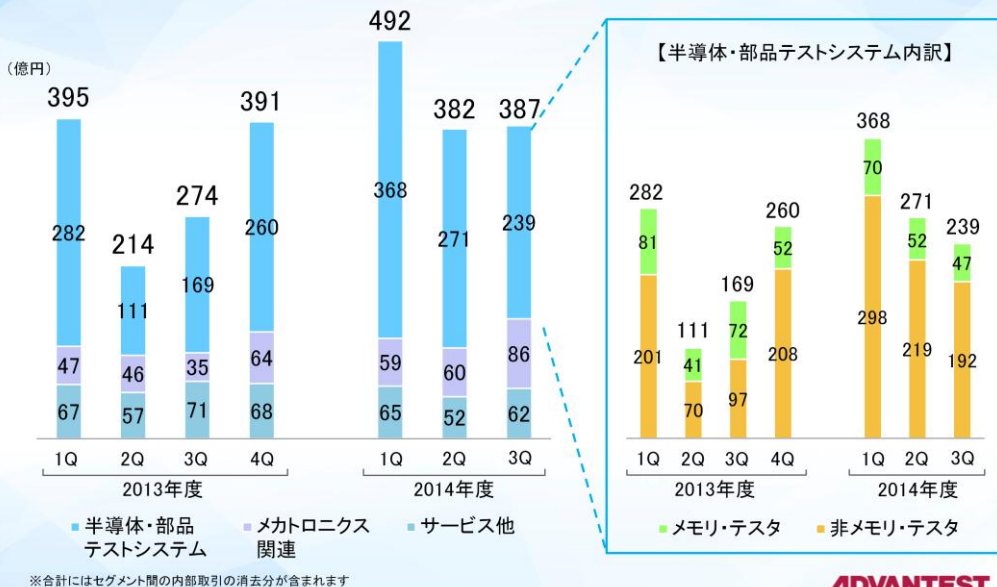
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

4

○ 2014年度第3四半期の業績概要

- 受注高 387億円 前期比 1.2%増
- 売上高 410億円 前期比 2.7%減
- 受注高、売上高ともに前期並みの数字を確保、前年同期比では大きな伸び
堅調な事業環境に円安進行による恩恵も加わった
- 営業利益 34億円 前期比 14.3%減
外貨建てオペレーションコストが円安に伴い増加した影響
- 税引前当期純利益 53億円 前期比 9.6%増
- 当期純利益 46億円 前期比 43.4%増
連結ベースの税負担が減少
- 受注残 381億円 前期末比 23億円減
売上増に伴い減少したが、前年同期比で120億円強上回る

受注高 事業セグメント別



ADVANTEST.

2015/1/29

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

5

○ 2014年度第3四半期の事業セグメント別受注高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前期比11%減 239億円
うち非メモリ・テスト 192億円
メモリ・テスト 47億円

- 例年第3四半期のテスト受注は弱含むが、今年はその傾向が緩やかに
- 中国で設置が進むLTE基地局や、スマートフォン用半導体向けのテスト需要が底堅く、非メモリ・テスト受注の落ち込みは想定より小幅
- メモリ・テストは、DRAM顧客の投資計画調整の影響により減少

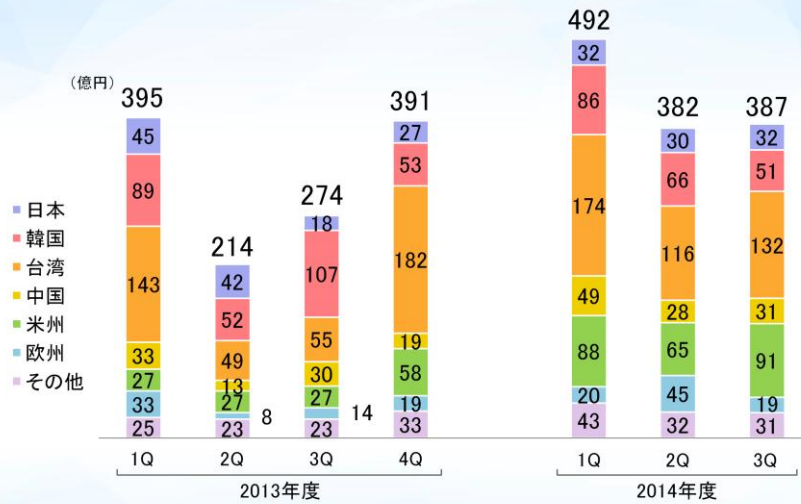
○ メカトロニクス関連事業

- 前期比42%増 86億円
- ハンドラ新製品、ナノテクノロジー製品の商談が進捗

○ サービスその他事業

- 前期比18%増 62億円
- 保守契約の増加

受注高 地域(出荷先)別

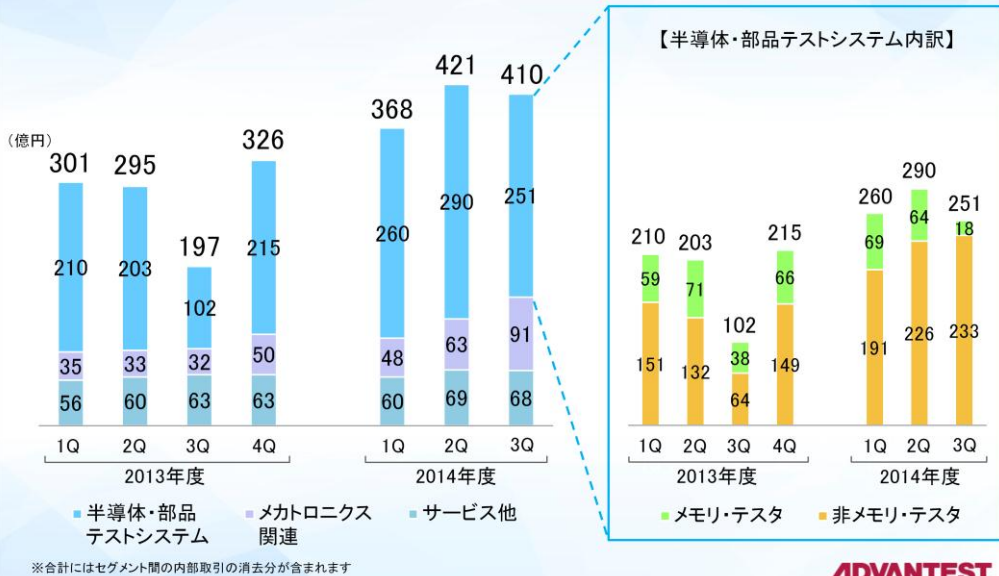


ADVANTEST.

○ 2014年度第3四半期の地域別受注高

- 台湾
LTE基地局用など、通信用半導体向けが底堅く推移
- 米州
ロジックIC向けが増加
- 欧州
ロジックIC向けが減少
- 韓国
DRAM向けが減少

売上高 事業セグメント別



ADVANTEST.

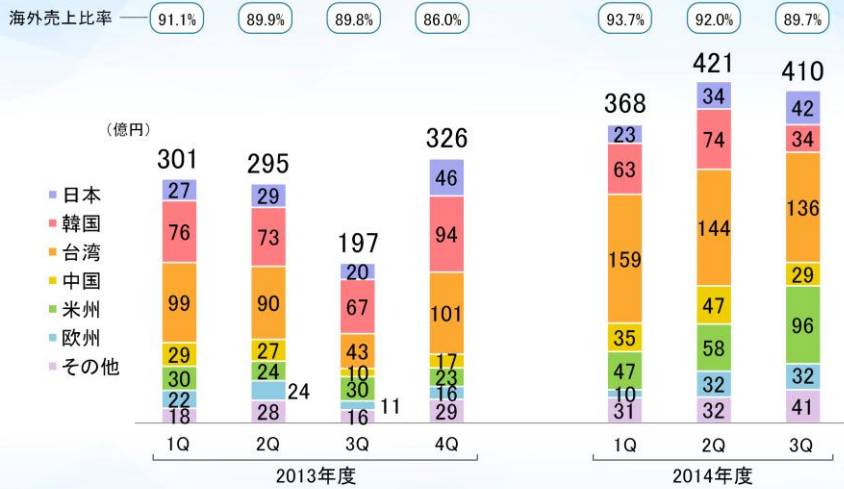
2015/1/29

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

7

- 2014年度第3四半期の事業セグメント別売上高
- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・ 前期比13%減 251億円
 - うち非メモリ・テスト 233億円
 - メモリ・テスト 18億円
 - ・ 非メモリ・テストは販売堅調
 - ・ メモリ・テストは、受注同様、顧客のテスト導入時期の兼ね合いから大きな減少
顧客の導入意欲自体に変化はなし
- メカトロニクス関連事業
 - ・ 前期比45%増 91億円
 - ナノテクノロジー製品が貢献
- サービスその他事業
 - ・ 前期比横ばい 68億円

売上高 地域(出荷先)別

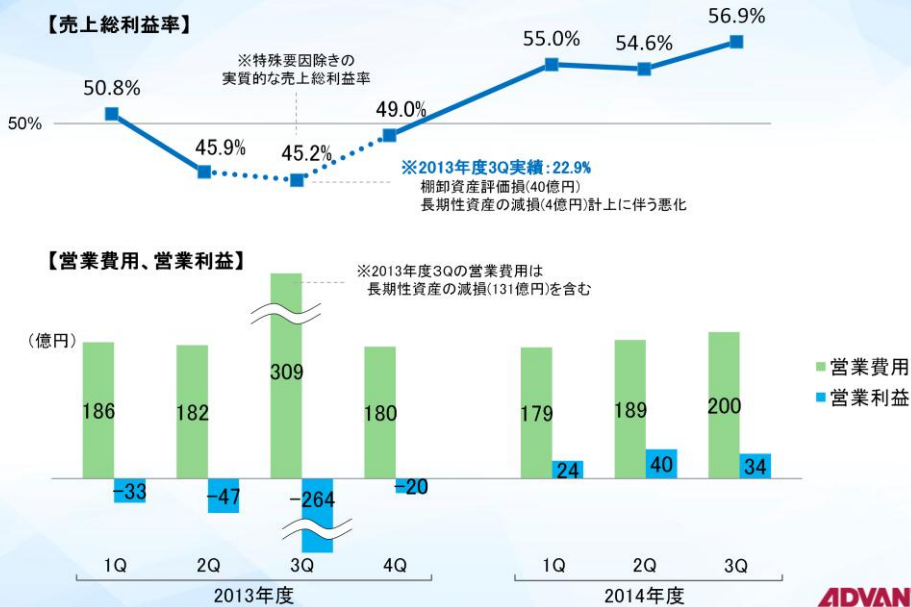


ADVANTEST.

○ 2014年度第3四半期の地域別売上高

- 米州
ロジックIC向けが増加
- 台湾、中国
スマートフォン関連の売上が減少
- 韓国
メモリ・テストが減少

売上総利益率/営業費用/営業利益



2015/1/29

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

9

○ 2014年度第3四半期の営業損益

- 売上総利益率 56.9%
採算性の良い製品の売上比率が上昇
- 営業費用 200億円 前期比 9億円増
外貨建てオペレーションコストが円安に伴い増加した影響
- 営業利益 34億円

研究開発費/設備投資/減価償却費



ADVANTEST.

○ 2014年度第3四半期の研究開発費等

- 研究開発費 78億円
- 設備投資 11億円
- 減価償却費 13億円
- いずれも前期並み

バランス・シート

(自己資本)	1,369	1,163	1,268	1,428
(自己資本比率)	61.7%	50.6%	50.8%	53.9%



ADVANTEST.

2015/1/29

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

11

○ 2014年12月末時点のバランス・シート

○ 資産の部

- ・ 売上債権
前期末比 34億円増 292億円
- ・ のれん
前期末比 49億円増 547億円
- ・ 総資産
前期末比 151億円増 2,650億円 外貨建て資産が円安で増加

○ 負債・資本の部

- ・ 自己資本 1,428億円
- ・ 自己資本比率
前期末比 3.1ポイント増 53.9%



ADVANTEST

2014年度 事業見通しアップデート

“事業環境は良好”

代表取締役 兼 執行役員社長 **黒江 真一郎**

ハイライト

■ 3Qに引き続き4Qもテストの事業環境は良好

- 中国でのLTE拡大に牽引され、非メモリ・テスト需要が底堅く推移
- 大手メモリ顧客の投資が予定されるなかメモリ・テスト需要が4Qに伸びる

■ テスタ以外の事業強化が進展

- 4Qもメカトロニクス、サービス他事業の売上拡大を見込む

■ 収益性に関して

- 複数低マージン機種の新製品への切り替えにより、利益率を改善中

ADVANTEST.

○ 今後の事業環境、事業の状況について概観

- 主力の半導体・部品テストシステム事業では、非メモリテストで底堅い需要が続くと見込んでいる
- 昨年テスト市場の回復を主導したのは非メモリ・テストだが、年が明けた4Qからはメモリ・テストの需要増加を見込む
- テスタ以外の事業の収益拡大についても、メカトロニクス、サービス他とも4Qにもう一段の売上拡大を見込む
- 低採算な製品の新製品切り替えや、一段の業務効率改善、生産性改善で利益率を改善していく

2014年度通期業績予想

(億円)

	13年度 実績	14年度 前回予想	14年度 今回予想	対前回 予想	対前年 実績
受注高	1,274	1,550	1,660	+110	+386
売上高	1,119	1,520	1,620	+100	+501
半導体・部品 テストシステム	730	970	1,050	+80	+320
メカトロニクス関連	150	280	300	+20	+150
サービス他	242	270	271	+1	+29
営業利益	-364	120	140	+20	+504
営業利益率	-32.5%	7.9%	8.6%	+0.7pts	+41.1pts
税引前純利益	-355	137	175	+38	+530
当期純利益	-355	80	125	+45	+480
受注残	320	350	360	+10	+40

※売上高合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

ADVANTEST.

2015/1/29

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

14

○ 2014年度通期の業績予想

- 10月に下期、通期の業績予想を上方修正したが、3Qの受注、売上は想定以上の結果
- これまでの実績と4Qの先行きを踏まえ、通期の受注高及び売上高予想をそれぞれ

受注 1,550億円 から 1,660億円
 売上 1,520億円 から 1,620億円 へ再見直し

- 売上高の通期予想修正に伴い、各利益予想も

営業利益 120億円 から 140億円
 税引前当期純利益 137億円 から 175億円
 当期純利益 80億円 から 125億円 へ修正

2014年度4Q業績予想

(億円)

※2014年度4Q業績予想 為替前提:1米ドル=115円、1ユーロ=140円

	13年度 4Q実績	14年度 1Q実績	14年度 2Q実績	14年度 3Q実績	14年度 4Q予想
受注高	391	492	382	387	399
売上高	326	368	421	410	421
半導体・部品 テストシステム	215	260	290	251	249
メカトロニクス関連	50	48	63	91	98
サービス他	63	60	69	68	74
営業利益	-20	24	40	34	42
営業利益率	-6.0%	6.5%	9.5%	8.3%	10.0%
税引前純利益	-12	32	48	53	42
当期純利益	-14	13	33	46	33
受注残	320	444	404	381	360

※売上高合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

ADVANTEST.

2015/1/29

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

15

○ 2014年度4Qの業績予想

- 受注は、前年同期、前期並み水準を想定
- 売上は、前年同期、前期をともに超えると見込む
- テスタ市場からの売上を維持しつつ、メカトロニクスやサービスの増収を達成することで全体の売上を底上げし、事業構造の転換が少しずつ形になってきた
- 4Q予想の為替前提は、1米ドルが115円、1ユーロが140円

FY14 4Q 各事業の見通し

■ 半導体・部品テストシステム

ー非メモリ・テスト

- アプリケーション・プロセッサ、ベースバンド・プロセッサ、LCDドライバ、モバイルPMIC等、スマートフォン関連需要が堅調
- 新規顧客や新規商談を相次ぎ獲得している車載系MCU、アナログ、PMICなどで伸び

ーメモリ・テスト

- 3Qは顧客のテスト投資の端境期となり受注、売上とも軟調もNAND向けのシェア拡大に目途
- 顧客の状況や最終製品のトレンドから、DDR4/LPDDR4向けの先行投資が前工程と後工程で4Qから需要が立ち上がると見込む
- NANDについても同様に4Qからの立ち上がりを想定

ADVANTEST.

○ 以降、4Qの各事業の詳細見通し

○ 非メモリ・テストの状況

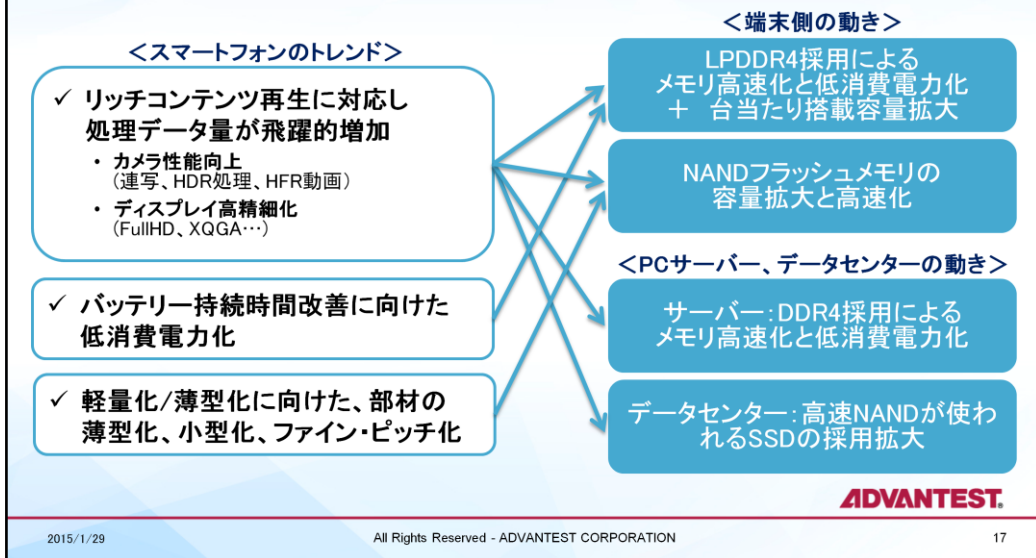
- スマートフォンの高性能化を支える半導体の性能進化に対応するためのテスト増強ニーズは足元も堅調
- 品種としては、アプリケーション・プロセッサ、ベースバンド・プロセッサ、LCDドライバ、モバイルPMICなど
- ほか新規顧客や新規商談を相次ぎ獲得している車載系MCU、アナログIC、PMICなどが伸長

○ メモリ・テストの状況

- 3Qは顧客の投資調整により受注、売上とも軟調も、NAND向けのシェア拡大に目途
- 顧客の状況や最終製品の技術トレンドから、DDR4/LPDDR4向けの先行投資が前工程と後工程で4Qから立ち上がると見込む
- NANDについても同様に4Qからの需要立ち上がりを想定
- 最終製品の技術トレンドを次に紹介

2015年のメモリ半導体トレンド

■ スマートフォンを軸に、次世代DRAMとNANDが成長



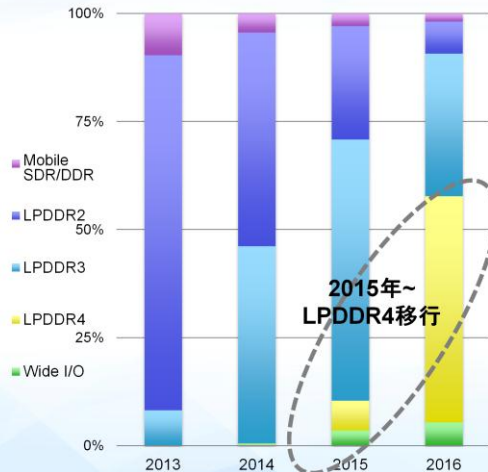
○ 2015年のメモリ市場について

- ・ スマートフォンを軸に、次世代DRAMとNANDが成長
- ・ スマートフォンでは、
 - ・ リッチコンテンツ再生に対応した処理データ量の飛躍的増加
 - ・ バッテリー持続時間改善に向けた低消費電力化の強化
 - ・ 軽量化や薄型化のための、構成部品の小型化やファイン・ピッチ化が進行している
- ・ このトレンドを受け、携帯端末では、
 - ・ LPDDR4採用によるメモリ高速化や低消費電力化と台当たり搭載容量の拡大
 - ・ NANDフラッシュメモリの容量拡大と高速化が進む
- ・ PCサーバーやデータセンターでも、
 - ・ DDR4採用によるメモリ高速化
 - ・ 低消費電力化、高速NANDが使われるSSDの採用拡大が進展
- ・ これらがメモリテスト需要に与える影響を次に紹介

DRAMとNANDの市場変化

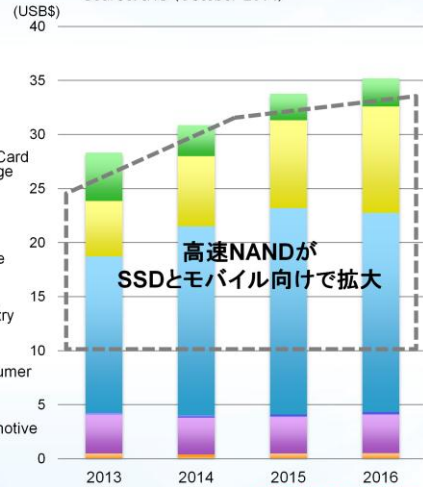
モバイルDRAM 世代別出荷ビット数比率予測

Source: IHS (December 2014)



NANDフラッシュ 用途別出荷金額予測

Source: IHS (October 2014)



○ 特にテスト市場に影響を与えるメモリ市場の変化について

- まずDRAMについては、スマートフォンにLPDDR4が搭載され始めること
- LPDDR4はデータ転送レートが高速化し、当社の最新機種「T5503HS」の需要が伸びる
- LPDDR4が2015年から2016年にかけて量産が本格化し、今年からテストの増強が進む
- 一方、NANDについては、データセンター向けのSSDの採用が広がり、その結果、高速NANDの市場が拡大することがテスト市場を牽引
- NANDについては、「T5831」を投入し、大手顧客から量産テストの認定を受けた

FY14 4Q 各事業の見通し

■ メカトロニクス関連事業

- SoC向けテスト・ハンドラ「M4871」の販売が4Qより本格化
- デバイス・インタフェースはメモリ・テストの伸びと連動し需要拡大
- CD-SEMIに加え電子ビーム露光装置でも商談獲得の可能性

■ サービス他事業

- 年間保守契約の順調な増加が続き、サービス収入を底上げ
- テラヘルツ製品とワイヤレス・システムレベルテスト製品の拡販を継続
- SSDテスト新製品が順調な立ち上がり

ADVANTEST.

○ メカトロニクス関連事業

- ハンドラ、デバイス・インタフェース、ナノテクノロジーのいずれも今期の成長に期待
- テスト・ハンドラは、SoCハンドラ「M4871」がこの4Qから販売台数を伸ばす
- テスト・ハンドラ「M4871」は最先端のデバイスを測るための温度制御機能や、ファイン・ピッチ品のハンドリング能力を備えており、OSATのデファクトテストである当社「V93000」とのテストセル構築という販売シナジーを追求
- メモリ・テストとの需要連動性が高いデバイス・インタフェースは4Qからの立ち上がりを期待
ハンドラ同様、テストセル販売の強みを打ち出せる商品
- ナノテクノロジー製品については、CD-SEMIに加え電子ビーム露光装置でも商談獲得の可能性

○ サービスその他事業

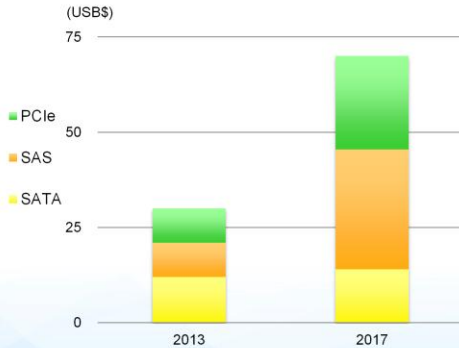
- 中核のフィールドサービス事業は、保守契約の増加が順調
- その他の新規事業については、テラヘルツ製品や、ワイヤレス・システムレベルテスト製品などで、拡販に向けた取り組みを続けている
- そのなかでもSSDテストの販売は順調
- SSDテストについての紹介を次に行う

SSDテスト市場

■ ビッグデータ時代を支える本格SSD用テストのニーズ上昇

エンタープライズ用SSD プロトコル別市場予測

Source: Advantest



✓ 飛躍的に増えるインターネットトラフィックが、エンタープライズ用SSDの市場を拡大

✓ エンタープライズ用では高速インタフェースの実装が加速

✓ クラウドコンピューティングの根幹を支えるため、高い信頼性も不可欠

✓ これらSSD市場の変化が高度なテスト要求へ



【SSDテストシステム「MPT3000」】

ADVANTEST.

○ SSDテストの紹介

- 新規事業のなかで、SSDテストの手応えが最も良好
- IoTの拡大や、ビッグデータ利用の広がりが期待されているなか、データセンター向けのエンタープライズ用SSDの市場規模が拡大し生産量の増加と性能向上が進む
- そのなかで、今後のSSDには性能試験と信頼性試験を高いスループットで行える高度なテストが必要
- 大手顧客での採用も進み、今年度の事業目標は達成できる見込み
- SSDテスト市場の立ち上がりが見込まれるなか、いち早く市場のリーダーシップを確立していきたい
- このSSDテストのような事業拡大の取り組みを通じ、今回上方修正した売上予想を達成する
- 以上で発表を終わります